

2年次の学修について

新2年生の皆さん、進級おめでとうございます。

2年次より、白金キャンパスでの学生生活が始まります。通学手段や学習環境が変わり、改めて薬学部に進学したことを実感することになると思います。まずは、規則正しい生活を心掛け、なるべく早く新しい環境に慣れるようにしましょう。

2年次では、薬学専門分野の科目を理解するために必要となる、細分化された薬学基礎専門分野の科目を学びます。必修科目の大部分は生命創薬科学科と薬学科で共通のものであり、将来の進路を問わず、専門性の高い「薬学」を学ぶための基礎固めをする大切な時期になります。科目数が多く、スケジュールもよりタイトになりますので、早くこの環境に慣れ、自分なりのペースを確立して行ってほしいと思います。定期試験の科目も格段に多くなります。試験直前の対応だけに頼ることにならないよう、日々の学習にしっかり取り組む習慣をつけていてください。

各学科に特徴的な科目も開講されます。例えば、生命創薬科学科では「生命創薬科学Ⅰ・Ⅱ」があり、ここでは本学部の基礎系研究室の研究内容を知ることができます。生命創薬科学科の皆さんは、3年次後半から研究室に配属され卒業研究をスタートさせます。本科目を研究室配属決定のために是非役立ててください。研究室は決して敷居の高いところではありません。興味を持った研究室があれば積極的に訪問してみてください。直接、先生方や先輩方のお話を伺うことができ、自分の将来像がより明確になることと思います。

薬学科においては「社会薬学実習」（生命創薬科学科は選択科目）があります。ここでは、初期救命救急、服薬不自由体験実習をはじめ、薬害肝炎、禁煙指導、災害時医療に関する実例に触れ、グループワーク、討議、発表を行い、将来、医療従事者の持つべき姿勢について学び、考えます。また、薬学科の皆さんが研究室に配属されて卒業研究をスタートさせるのは4年次後半からですが、どのような研究分野に興味があるのかアンテナを張り巡らせ、早期に研究室を訪問することをお勧めします。

このように、いずれの学科においても、基礎科目を学びながら早期に研究や医療の専門領域に触れる機会を大切にしています。是非、幅広い知識を身につけてください。2年次は、皆さんがいずれ社会に出るための知識・経験を蓄え、将来の選択肢を広げるための基礎体力作りの期間です。皆さんが、実り多き1年を過ごされることを祈念いたします。

2024年度2年次学年主任

加藤 くみ子（分析化学教室・教授）

3年次の学修について

新3年生の皆さん、進級おめでとうございます。

白金キャンパスでの大学生活も2年目となり、慣れてきたことと思います。より専門性の高い「薬学」に関する内容の講義・実習が増えてきて、薬学部に進学したことを改めて実感できたのではないのでしょうか。

3年次では、薬学科・生命創薬科学科ともに、2年次で学んだ物理系・化学系・生物系などの基礎科目から、薬学のより専門的な科目である薬理学、衛生化学、公衆衛生学、臨床系の講義などが開講されます。これまでに習得した基礎知識が専門的な科目にどのように関連しているのかを意識しつつ、薬学の知識を体系的に身に付けていってください。

薬学科では、臨床系科目が増え、医療に関する知識や医療人に必要な倫理観などを学ぶことによって、薬剤師として活躍するための専門知識を修得します。また、3年次は、4年次の研究室配属を見据えて、自身が興味を持つ研究分野を考え始める時期でもあります。薬剤師として研究にも携わりたい方、研究者を目指したい方は、基礎系、臨床系を問わず薬学部における研究活動の状況を把握し、興味がある研究室を積極的に訪問してください。プレ特別実習の制度を利用すれば、早期に研究を体験できる可能性もあります。講義・実習のない時間帯や長期休暇は、研究活動を始める良いチャンスです。研究室では、先輩や教員と近い距離で話をすることができ、研究室の雰囲気、研究活動や就職活動の実際を肌で感じることができるようでしょう。

生命創薬科学科では、創薬情報科学、理論分子設計学、創薬化学など生命創薬科学科独自の講義に加え、臨床系科目を含む多くの選択科目が開講されます。選択科目を履修することにより、薬学部生命創薬科学科だから受講できる医療薬学の知識を修得することができます。これらの講義で修得できる知識は、将来の就職活動の際、理学部や工学部、農学部の生命系学部の学生と差別化できる知識ですので、医療薬学の講義にも積極的に取り組んでください。後期からは研究室に配属され、卒業研究が始まります。研究室の選択は自分自身の進路を考える第一歩でもあります。前期の早いうちに色々な研究室を見学し、先生・先輩方の話を聞いて様々な研究分野を知り、自分がどのような研究分野に興味があるのかをしっかりと考えた上で、研究室を選択すると良いでしょう。

このように、3年次は、基礎薬学と臨床薬学を融合したカリキュラムに従った学びを通して、医療人、医療系技術者・研究者となるための土台を固める学年です。次の時代の日本、世界を背負う覚悟をもって、目の前の可能性にチャレンジしてください。皆さんが、実り多き1年を過ごされることを祈念いたします。

2024年度3年次学年主任

奥脇 暢（生化学教室・教授）

4年次の学修について

新4年生の皆さん、進級おめでとうございます。

入学以来、早いもので3年が経過し、生命創薬科学科の皆さんは最高学年、薬学科の皆さんは薬剤師としての実践的な能力を身に付けていく学年となりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて様々な制約や不便があったと思いますが、薬学部生としての自覚も十分に身につけ、充実した日々を過ごされていることでしょう。

生命創薬科学科では、配属研究室での卒業特別実習が本格化し、卒業研究と卒業論文の完成を目標に、日々、研究に明け暮れることになるでしょう。そのような忙しい日々の中、自分の将来の進路についても、しっかりと考え、大学院へ進学するのか、あるいは就職するのか、など決める必要があります。教員や家族とも相談し、自分自身が希望する進路に進まれることを切に願っています。1年間の卒業研究は、薬学研究に関する知識や技能、問題発見・解決能力、プレゼンテーション能力を養うための大変よい機会になります。しっかりと取り組み、納得のいく卒業論文を仕上げるように努力してください。有意義な1年になることを期待しています。

薬学科では、薬局・病院事前実習、薬学共用試験（OSCE および CBT）を経て、薬局・病院実習に出かけていくこととなります。薬局・病院事前実習は、薬剤師業務に必要な基本的知識・技能・態度等の習得を目標とするもので、しっかりと取り組むことで十分な OSCE 対策となります。一方、CBT 対策は、基本的には自己学習で行なうこととなります。体験受験や模擬試験で、PC を使い問題を解く試験に慣れることと、試験範囲が広いため早めに対策を始めることが大切です。薬局・病院実習を行うためには、OSCE と CBT の両方に合格することが必須です。全員が合格し、薬局・病院実習に出かけられることを願っています。また7月には、卒業特別実習を行なう研究室が決定します。研究室については、先生・先輩方の話を聞いて、自分がどのような研究分野に興味があるのかを良く考えた上で、選択すると良いでしょう。基礎薬学と臨床薬学の両輪を学び、医療人に必要な倫理観や社会性などについて習得することを期待しています。

最後に、皆さん自身が選んだ「薬学部」での学びの中で、自己研鑽を重ねながら成長されることを切に願っています。新しい時代の変化に対応しつつ、今年度もできることを一つ一つ積み上げ、皆さんが、実り多き4年次を過ごされることを祈念いたします。

2024年度4年次学年主任

成川 衛（医薬開発学教室・教授）

5年次の学修について

新5年生の皆さん、ご進級おめでとうございます。昨年5月に、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが2類相当から5類感染症に変更されました。それを受け、社会は平常を取り戻しつつあり、大学でも講義・実習だけでなく、クラブ活動や各種イベントが、コロナ禍前のものに戻りつつあります。一方で、長いコロナ禍で身についた生活習慣はそう簡単に抜けるものでもなく、皆さんにとって新しい生活様式に、戸惑いながらも、適応しつつ過ごされていることと思います。そのような中、共用試験（OSCE、CBT）を突破し、進級・新学期を迎えることができたことを大変嬉しく思います。

5年次は病院・薬局実習と薬学卒業特別実習（卒業研究）が中心となります。一部の方は、既に始まっていますが、保険薬局実習では、薬局薬剤師としての業務（保険調剤、医薬品などの供給・管理、情報提供、健康相談など）の他、地域医療に参画するための基本的な知識、技能、態度を修得することを主な目的とします。それに続く病院実習では、病院薬剤師の業務（注射薬を含む調剤、製剤、病棟業務など）とともに、チーム医療に参画するための基本的な知識、技能、態度を修得することを主な目的とします。病院・薬局実習を通して、これまでに大学で学んできた知識・技術をより実践的なものとする、コミュニケーション能力の向上に努めること、医療人に必要な倫理観や社会性を身につけることが重要です。また、卒業後の進路について考える非常に良い機会になるでしょう。積極的な態度で実習に臨むことを期待します。

コロナ禍を経て、社会は感染症への関心が高まっています。医療機関においては、引き続き感染症の予防と対策に注意が払われることでしょう。受け入れ先の施設の方々や指導薬剤師の先生にご迷惑をおかけしないよう、感染症対策と体調管理に気を配るようお願いいたします。また、実習先では、多くの業務を抱え、多忙な中、指導してくださる先生に感謝の気持ちを持って、1日1日の学びを大切にしてもらいたいと思います。

4年次からの卒業研究は、引き続き実施します。薬学教育モデル・コアカリキュラムに薬剤師として求められる基本的な資質の1つに「研究能力」があります。卒業研究は、薬学部6年間の学びの中で、研究能力を養うことができる唯一の科目といっても過言ではありません。与えられた研究課題に取り組み、実験・調査などを通じて「未知あるいは未解決の問題」に対する答えを追究するプロセスを経験し、そこに楽しみを感じてもらえたらと思います。卒業研究を通して、論理的思考や問題解決のためのアプローチ法、研究倫理、自身の研究を他者に伝えるプレゼンテーション能力、そして研究を進める上で大切な粘り強さを身につけて下さい。本格的な卒業研究は、医学部や看護学部にはない、薬学部独自のプログラムであり、ここでの経験は、将来どのような分野に進んだとしても薬学部出身者のアイデンティティとして皆さんを支えるものになります。

病院・薬局実習や薬学卒業特別実習などで忙しい一年となると思いますが、同時に充実した一年になるはずで、実り多き5年次を過ごされることを祈念しています。

2024年度5年次学年主任

中原 努（分子薬理学教室・教授）

6年次の学修について

新6年生の皆さん、ご進級おめでとうございます。北里大学薬学部での学生生活はコロナ禍にあり、実習、研究、講義等で制約を受ける部分がありました。ようやくここ最近、コロナ前の生活に戻りつつある中、今年度は、いよいよ最終学年、集大成の年となりました。

さて、6年次には「チーム医療演習」、「卒業特別実習（卒業研究）」、「薬学総合演習」という3つの必須科目が配置されています。「チーム医療演習」は、4月30日、5月1日の2日間、北里の医療系学部が集結して行われます。本年度は久しぶりに対面形式で実施される予定であり、他学部の学生と交流できる貴重な学びとなります。この機会を活用し、他職種との連携や医療チームにおける薬剤師の役割について理解を深めてもらいたいと思います。「卒業研究発表会」は、7月6日にポスター形式で行われます。4年生の1月から取り組んできた卒業研究の発表の場となります。自分自身の研究について深く考え、納得のいくものに仕上げるとともに、他者にわかりやすく伝えることを心がけてください。卒業研究を通して身に着けた問題発見・解決能力、論理的思考能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などは、将来必ず皆さんを支える力になるはずです。是非、積極的に取り組みましょう。「薬学総合演習」は、8月末から始まります。今まで学修してきた知識を体系的に学び直すことで、実践的な薬剤師としての能力を養います。単なる知識の暗記にとどまらず、論理的に物事を理解し体系的に知識を結び付けていく学修、つまり教科間連携を意識した学びが重要となります。過去3年間の薬剤師国家試験問題を早めに見ておくことも、知識の見直しに役立ちます。分からないことがあれば、先生に質問したり、友人同士で話し合ったり、自分で調べたり等、小さな事柄でもその都度、解決しておくことが合格への鍵となります。学びは、ゆっくりと着実に、例えるなら普通列車（快速列車のようにスイスイ進まない）のようであるものと意識し、コツコツと積み上げてください。

6年次の一年間は、これまでの集大成であり、薬剤師国家試験までの大切な時期ですので、体調管理には十分留意し、計画的に勉強してください。全員卒業、全員薬剤師国家試験合格を目指して、皆さんの一層の努力を期待したいと思います。学生生活や学修等で困ったことがあれば、チューターや学年主任はじめ、教職員一同、皆様を支援できる態勢を整えておりますので、遠慮なくご相談ください。

皆さんの学生生活最後の一年が充実した年になることを祈念しております。

2024年度6年次学年主任

清野 正子（公衆衛生学教室・教授）